



世界発

2011

④マリアルバイ郊外では、黒人有力部族ディンカの人たちが、牛を放牧していた⑤マリアルバイ高校の実験室で、故郷の将来について語るバレンチノ・デンさん(いずれもスーダン南部、古谷写す)



識字率低迷なお人材不足

米国やカナダに逃れたデンさんのような元ロストボーイズたちは今、南部の自治政府や企業、NGOなどで大きな役割を果たしている。9日に始まった住民投票で、北部からの分離・独立が支持され、7月には南部が新生国家となる見通しだ。だが、人材の育成が追いつかない。

内戦とその後遺症で教育制度が整備されず、南部住民の識字率は2割程度にとどまる。南部自治政府の教育省などによると、義務教育の小学校に通学しているのは、子どもたちの約25%に過ぎない。教員は必要数の半分の1万7千人。その65%は小学校しか出ておらず、教員資格を持っていない。ボランティアとして木陰で子どもたちに読み書き

きを教えていた村人らが、05年の包括和平合意に基づいた南部自治政府の発足で、そのまま教員登録されたためだ。国際協力機構(JICA)の空戸健一・スーダン駐在員事務所長は「教育を巡る状況がこれまで悪い地域は、世界でもまれだ。その結果、深刻な人材不足が起きている」と指摘する。

自治政府は、人材開発を進めて労働力を徐々に自国民に置き換える方針だが、相当な時間がかかるのは必至だ。JICAはジュバにある自治政府の職業訓練校に専門家を派遣し、06年から約4千人に電気や機械などの職業訓練をしてきた。だが、自治政府側は入校資格を高校卒業者と

南部の拠点都市ジュバのJICA事務所では数年前、運転手を雇おうとしたが、車を運転できる地元住民が見つからず、出稼ぎのケニア人を雇わざるを得なかったという。運転手だけでなく、ホテルや銀行、建設工事など、民間部門の仕事の多くは、読み書きができるケニア人やウガンダの出稼ぎ労働者が担っている。

JICAはジュバにある自治政府の職業訓練校に専門家を派遣し、06年から約4千人に電気や機械などの職業訓練をしてきた。だが、自治政府側は入校資格を高校卒業者としている。本場に訓練が必要な南部育ちの人々は文字も読めないため、入校できないというジレンマがあるという。自治政府は昨年6月「人材開発省」を設置した。公務員の能力を上げるためだ。同省の担当者によると、公務員には内戦時の元戦闘員も多く、職務遂行能力は低い。予算を使い切れず年度末に国庫に返納するケースが常態化してい

るといい、予算の4割を返納したケースもあったという。独立すれば、今以上に多様な人材が不可欠。JICAなどの担当者は「教育を広め、研修などで能力を高める必要がある」と強調している。